

透明性の高い 開かれた事業活動

2009年度 基本方針

- 原子力や低炭素社会への対応など当社事業への理解促進、そしてみなさまに選んでいただける企業グループをめざし、質の高い「フェイス トゥ フェイスのコミュニケーション活動」を継続します。
- 日々の業務を通じて、お客さまからいただいた貴重なご意見を、事業活動に反映します。

ステークホルダーのみなさまとのコミュニケーション

お客さまとの多角的な会話

■原子力発電への理解を促進

当社がお客さまにお届けする電気の約半分は、福井県にある原子力発電所でつくられています。また、原子力発電は発電時にCO₂を排出しない環境にやさしいエネルギーです。このように原子力は暮らしを支える電気をつくるために欠かせないだけでなく、地球温暖化防止対策を進めるうえでも重要な役割を果たしています。当社は、こうした原子力に対するみなさまのご理解を深めていただける活動を進めています。

●原子力関連施設の見学会

当社は、お客さまに福井県にお越しいただき発電所など原子力関連施設を見ていただく見学会を実施しています。PR館や発電所内を実際にご覧いただきながら、原子力発電のしくみや役割などについて、ご理解をいただいております。2009年度は約35,000人の方に参加していただきました。



原子力研修センターの見学会
※見学会についての詳細は
最寄りの当社営業所にお
問い合わせください

■次世代層への教育

●「出前教室」の実施

当社は、未来を担う子どもたちにエネルギーを身近に感じてもらい、その大切さを伝えることが、とても重要だと考えています。そこで、当社従業員が地元の小・中学校などにお伺いし、エネルギーに関する授業「出前教室」をおこなっています。

この「出前教室」では、発電や送電のしくみのほか、電気の使用の仕方や省エネの大切さ、地球温暖化問題などについてご説明しています。また、手回し発電機を回して電灯を点灯させたり、地球温暖化実験装置を使って二酸化炭素が地球温暖化に影響していることを解説するなど、エネルギーについて楽しく、わかりやすく学んでもらえるよう工夫をしています。



出前教室では地球温暖化のしくみなどをわかりやすく説明

VOICE

第一線職場の地域共生・広報を担当して

出前教室を通じた信頼づくりに 努めています

発電所見学会や出前教室、地域イベントなどを通じ、当社事業を理解していただく活動に取り組んでいます。とくに出前教室では、事前に先生方のご要望をお聞きしながらよりよい授業となるよう準備し、教室では子どもの目線に立った説明や実験を心がけています。そんな姿勢で臨んだ教室で、子どもたちが目を輝かせながら聞いたり実験した

りする姿を見ると、やりがいを感じるとともに、地域共生や広報の役割も実感します。こうした活動が、当社への信頼を深めることにつながると信じ、今後も、出前教室を通じて、子どもたちがエネルギーや地球温暖化問題について考えるきっかけづくりに役立ちたいと思います。

京都営業所 所長室
大西 健司



PR施設を通じた地域社会との交流

当社は、地域のみなさまに事業活動や電気事業の取組みについてご理解をいただくとともに、地域社会とのコミュニケーションを深めるため、発電所などにPR施設を設けて一般の方々にご利用いただいています。

2008年7月には、福井県おおい町の複合レジャー空間「うみんぴあ大飯」内に「エルガイアおおい」をオープン。世界最大級のバーチャルシアターなどを備え、エネルギーと地球の未来を楽しみながら学べます。

また、2009年3月には、大阪市住之江区の南港発電所内にあるPR施設「エル・シティ館」をリニューアル。力・磁石・光・熱などさまざまな不思議な科学現象を、展示物や映像で興味深く学べます。



巨大バーチャルシアターを備える「エルガイアおおい」



南港「エル・シティ館」は科学をテーマにリニューアル

インターネットによる情報発信 NEW

当社に関する情報の迅速かつ正確な発信を心がけるとともに、お客さまにとって使いやすく、役に立つコンテンツの充実に取り組んでいます。

例えば、落雷対策にご利用いただけるよう、2009年6月からはホームページに「雷情報」を掲載するサービスを始めました。また、モバイル端末が普及している状況を踏まえ、2010年3月には携帯サイトのリニューアルを実施しました。

インターネット会員倶楽部「かんでんe-Patio」（会員数約35,000人）では、メールマガジンとホームページで情報を発信し、会員さまとの関係を深められるよう努めています。



関西電力のホームページ（雷情報）



関西電力の携帯サイト

オピニオンリーダー：世論形成に影響を持つ人。

コミュニケーション誌による情報発信

関西電力グループの事業活動をお客さまにより広く、また、より深くご理解いただくため、刊行物などによる情報発信を展開しています。

社会性や時事性の高いテーマに関する深く掘り下げた情報を発信するオピニオン層向け広報誌『躍』や、暮らしや地域をテーマとしたトピックスに加え、当社およびグループ事業を紹介する、PR誌『わっと』を定期的に発行しています。



『躍』（年4回発行）



『わっと』（年4回発行）

社会のみなさまの声を事業活動に反映

社会のみなさまに、当社の事業活動についてご理解を深めていただくとともに、ご意見やご要望を頂戴して事業活動に反映するため、各事業所は、お客さま宅を訪問するほか、地域の有識者やオピニオンリーダーの方々を対象とした懇談会を開催しています。

このような地域社会のみなさまとの交流の場や、日々の業務のなかで、当社は事業活動に関するさまざまなご意見やご要望を頂戴します。その一つひとつを大切に、それぞれの事業活動に反映するために、多種多様な広聴活動を展開しています。なかでも1994年に開始した「ダンボの声」では、当社従業員が地域社会のみなさまから頂戴したご意見を当社で共有し、業務改善に役立てています。



当社主催の懇談会を積極的に開催

報道機関への対応

テレビや新聞が報じる情報は、お客さまの当社に対する理解やイメージを大きく左右します。そこで、当社は定例社長会見をはじめ、報道機関への情報提供を積極的に実施すると

もに、報道機関からの取材にも迅速に対応し、正確な情報開示や伝達をおこなっています。



記者会見



社内コミュニケーション

経営重要情報を共有化および理解促進するとともに、職場一体感や従業員のやる気・やりがいを高めるため、従業員・職場間のコミュニケーションの活性化に努めています。

従業員一人ひとりに確実に伝達するため、情報の発信には、その特性を活かした各種社内媒体が用いられます。例えば、社内ポータルサイトでは、即時性の高い情報発信をおこない、毎月発行する社内報『関西電力新聞』では、経営情報などを詳細に解説し、とくに重要な情報については特集を組むほか臨時号を発行し、よりわかりやすく解説しています。さらに、経営計画など経営層の思いをダイレクトに伝えたい場合は、社内テレビを活用しています。

また、こうした情報発信に加え、従業員から届く声などを経営層に伝えることにより、双方向のコミュニケーションを実践しています。



『関西電力新聞』（毎月1回発行）で適時的確な情報発信を実現



全社共通ポータルサイトで情報をタイムリーに発信

一方、原子力部門の従業員と協力会社で働く人々を対象としたコミュニケーション誌『わかさ』を定期的に発行しています。原子力に関するトピックスなどを共有し、社内にも

安全最優先の意識を浸透させるとともに、協力会社で働く人々も含めた一体感の醸成や活力ある原子力職場づくりをめざしています。



原子力職場の一体感を醸成する『わかさ』（年4回発行）

株主・投資家のみなさまへの情報発信

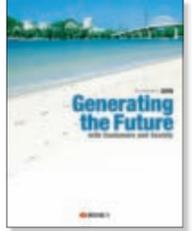
当社は、投資家のみなさまに公平で迅速な情報発信に努めています。国内や海外の機関投資家、個人投資家、公共団体など、多岐にわたる投資家のみなさまに対し、さまざまな方法で情報を提供しています。

■会社説明会・投資家訪問

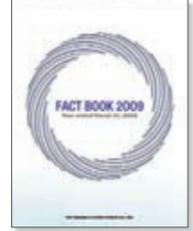
社長による「会社説明会」や、社長を含めた役員による国内外の「投資家訪問」を定期的実施し、経営者自らが積極的に投資家のみなさまとの対話を図るとともに、資本市場の声を経営にフィードバックするなど、双方向のコミュニケーションに努めております。

■IRツールでの情報開示

株主・投資家のみなさまに対して、当社事業の概要や、経営目標、財務データなどを提供する冊子を作成し、ホームページにも掲載しています。



『アニュアルレポート』（海外の株主・投資家のみなさまや取引先に向けて経営内容の総合的な情報を掲載：年1回発行）



『ファクトブック』（経営目標や販売電力量、設備投資額、財務諸表の経年データなどを掲載：年1回発行）



『かんでんだより』（株主さま向けの事業報告書：年2回発行）



『企業情報/IR』（当社HPサイト：随時更新）

Web 「株主・投資家のみなさま（IR情報）」 <http://www.kepco.co.jp/ir/index.html>

IR：Investor Relationsの略。企業が株主や投資家に対し、投資判断に必要な情報を適時、公平、継続して提供する活動全般のこと。

5章 取組みへの評価

- ▶ 2009年度は、当社の事業活動について適時的確な情報発信をおこなうだけでなく、原子力関連施設への見学会や次世代層向けの出前教室など、「フェイス トゥ フェイスのコミュニケーション活動」をより充実させ、積極的に取り組みました。
- ▶ 地域社会のみならずとの交流を通して、また、日々の業務のなかでいただいた、当社の事業活動に関するさまざまなご意見やご要望を当社で共有し、業務改善につなげていくよう努力しました。

社外の方からの主なご意見

- 原子力発電施設を見学したが、過去の事故を隠すのではなく、今までの課題や今後の安全対策を含めたしっかりとした説明がなされ、安全に取り組む会社の姿勢が伝わってきた。
- 出前教室は、多くの実験道具を用いて実際に体験させることにより、普段の授業では伝えきれない充実した内容であった。子どもたちの学習効果があがったため、今後も継続してほしい。
- 原子力発電施設見学を通して、日本は資源が乏しい国であることを考えると、効率よくかつCO₂を排出せずに電気をつくることのできる原子力発電は将来性があるように思った。
- 原子力発電施設を見学したが、五重にも安全設計がされており、一つひとつの設備に安心した。また、CO₂の発生が少ないことで地球にもやさしいことを初めて知った。

専門家の方のご意見



大阪大学コミュニケーション
デザインセンター
特任准教授
八木 絵香 氏

評価できること

企業と社会のあいだの信頼関係構築のためには、2009年度に積極的に取り組まれた「フェイス トゥ フェイス」を重視したコミュニケーション活動が不可欠です。

またこのような活動は、組織の構成員に多くの気づきを与え、外部の声を組織のマネジメント活動に反映することができるという意味で、組織が社会から「学ぶ」ための貴重な機会となります。

要望したいこと

コミュニケーション活動に一般論としての正解はありません。組織の構成員一人ひとりが常に、社会が企業に何を求めているかを考えつづける。よりよいコミュニケーションとは何かを自らに問いつづける。現状に満足することなく、常に改善しつづける。このように常に謙虚な姿勢で前に進みつづけることで初めて、社会に信頼される組織でありつづけることが可能となるのだと考えます。

関西電力がそのように社会に信頼される組織でありつづけることを強く期待しています。

2010年度 以降の方針

関西電力株式会社
執行役員
地域共生・広報室長
八嶋 康博



当社は、これまで事業活動への理解の獲得、そして社会のみならずを選んでいただける企業グループをめざし、当社の幅広い事業内容について、迅速・正確な情報発信

をおこなってまいりました。また、社会のみならずとのコミュニケーション活動を推進し、いただいたご意見・ご要望を事業活動に反映させてまいりました。

とくに最近では、温室効果ガスの排出削減に向けた地球規模の取組みが加速しており、今後ますます、社会の低炭素化への貢献が企業価値を左右する状況となってきました。低炭素社会の実現の担い手である関西電力グループの事業活動への理解を獲得するため、今後もよりきめ細やかなコミュニケーション活動を推進し、より一層透明性の確保に努めてまいります。